2025東金・九十九里波乗りハーフマラソン
報道機関各社の皆様

この度、報道機関各社の皆様より多大なるご支援とご協力を賜り、3回目の開催となる「2025東金・九十九里波乗りハーフマラソン」を開催する運びとなりました。

皆様には深く御礼を申し上げます。

大会当日は、全国から来訪されるランナーの皆さん、大会会場や沿道で応援する人々、そして、笑顔いっぱいでおもてなしの振る舞いを行うボランティアスタッフなど、本大会の取組を取材していただけたら幸いでございます。ご多忙のところ大変恐縮でございますが、ご来場を賜りたくお願いを申し上げます。

【大会の概要】

１ 期　日　2025年2月23日（日・祝）

２ 会　場

種　目	会　場
ハーフマラソンの部	東金アリーナ陸上競技場
ペア（３ｋｍ）の部	九十九里町片貝中央海岸（九十九里ふるさと自然公園センター前）

３ 定員・エントリー状況

種　目	定員	エントリー状況	前回大会
ハーフマラソンの部	３，０００名	３，５５２名	２，９１２名
ペア（３ｋｍ）の部	３００組・６００名	２９１組・６４１名	２９７組・６５３名

４ スタート時刻・制限時間

種　目	スタート時刻	制限時間	前回大会の完走率
ハーフマラソンの部	９時２０分	３時間００分	９８．８％
ペア（３ｋｍ）の部	１０時４０分	５０分	

【ご来場に当たって】

〇ご来場の時間　午前８時００分を目途に「東金アリーナ陸上競技場」へお越しください。

〇ご使用駐車場　「東金市浄化センター駐車場」をご利用ください。

＊「共通駐車券」裏面の駐車場位置図をご参照ください。

〇配 布 物 品　「共通駐車券」・「報道ＩＤ」

＊「報道ＩＤ」の着用により、当日の受付は不要です。

〇開催可否決定　大会当日、午前５時３０分に開催可否を決定します。

＊大会ＨＰ又は東金アリーナＨＰでご確認願います。

（雨天決行）

〇スケジュール

時 間	内 容	
8:00	ご来場	
8:30	開会式	大会ゲストの高橋尚子さんを交えて開催
9:20	スタート	鹿間委員長（東金市長）の合図で一斉にスタート
		波乗り応援団（和太鼓チーム）による応援パフォーマンス
9:51頃～	不動堂IC（折り返し）	波乗り応援団（和太鼓チーム）による応援パフォーマンス
10:25頃～	先頭ランナーフィニッシュ	波乗り応援団（和太鼓チームほか）による応援パフォーマンス
10:35頃	総合男子表彰式	総合男子の1位～3位を表彰
10:45頃	総合女子表彰式	総合女子の1位～3位を表彰
12:30頃	最終ランナーフィニッシュ	
14:00	大会終了	

〇地域の特色を活かした振る舞い

＊地元産“いちご”の振る舞い〔19km地点（広瀬公民館前）の「いちごステーション」〕

＊地元産黒豆を使用した“家康鷹狩り汁”の振る舞い〔フィニッシュ後〕

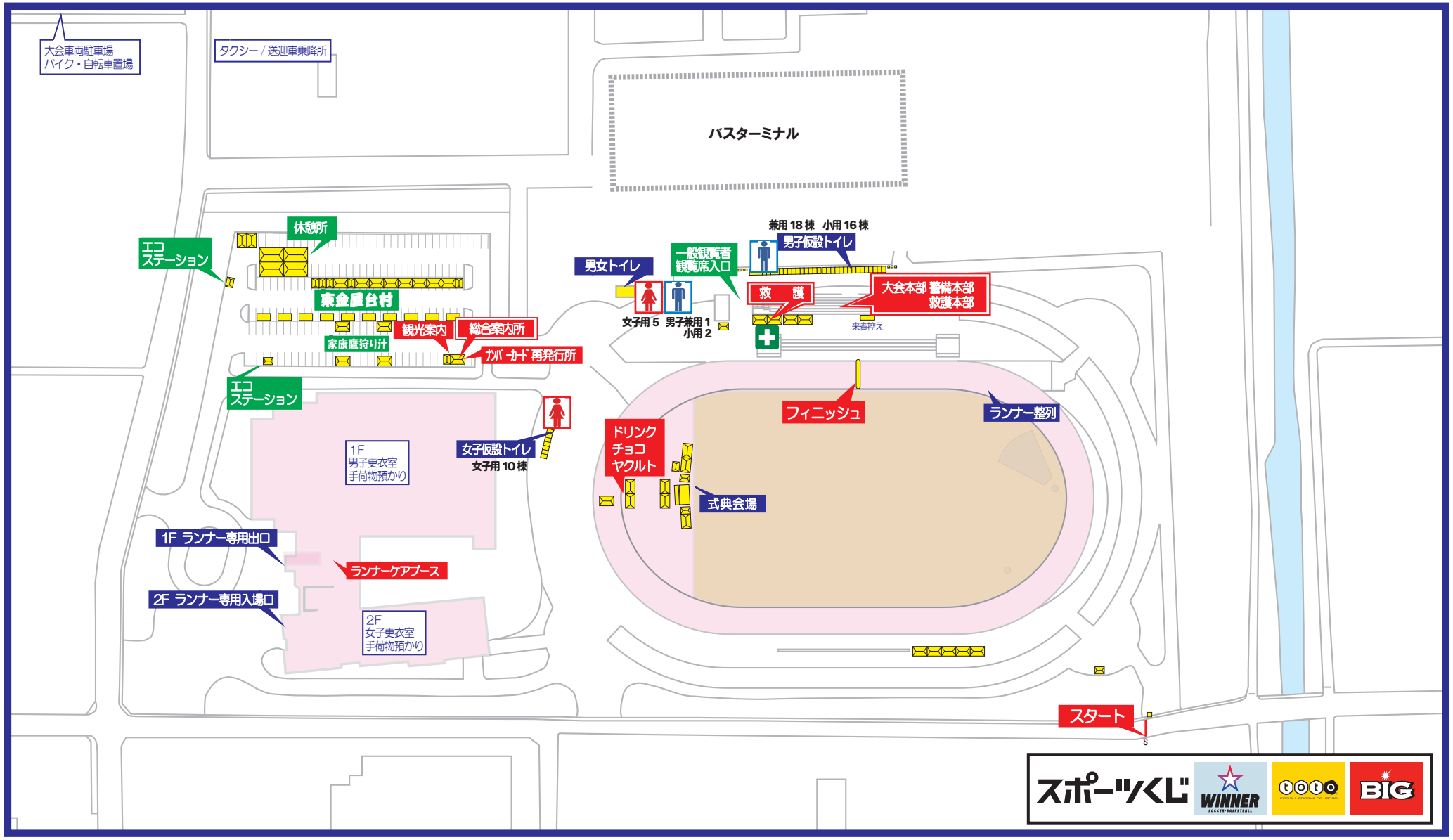
＊道の駅みのりの郷東金、信州安曇野ハーフマラソン実行委員会等23店舗が出店〔東金屋台村〕

＊波乗り応援団（和太鼓・ダンス・吹奏楽）のパフォーマンスによる応援〔競技会場・コース上〕

【お問い合わせ】
2025東金・九十九里波乗りハーフマラソン事務局
（東金市役所スポーツ振興課）
TEL　0475－50－1189
e-mail　sports@city.togane.lg.jp


COURSE MAP コースマップ
至　東京・千葉
128
押堀IC
126
東金駅
ハーフマラソンの部
ペア（3km）の部
138
有料道路
START&FINISH
東金アリーナ
25
第1・3関門
小沼田 IC
①
②
①・④
東金九十九里有料道路
片貝県道
関門所
第1関門　4.0 km地点　閉鎖時刻　10:05
第2関門　10.1 km地点　閉鎖時刻　10:55
第3関門　16.6 km地点　閉鎖時刻　11:45
救護所
① 第1　1.6 km・19.0 km 地点
② 第2　4.0 km・16.6 km 地点
③ 第3　8.0 km・12.5 km 地点
④ 第4　10.1 km　地点
給水所
① 第1　3.9 km 地点
② 第2　8.0 km 地点
③ 第3　12.6 km 地点
④ 第4　16.7 km 地点
いちごステーション
19.0 km 地点
75
豊海県道
123
122
今泉ＰＡ
③
②・③
不動堂IC
④
真亀JCT
ペア（3km）
折り返し
片貝 IC
第2関門
ハーフマラソン
折り返し
START&FINISH
片貝中央海岸
九十九里有料道路
（波乗り道路）

東金・九十九里波乗りハーフマラソン 会場案内図



ランナー走行予定時刻・交通規制

Km	地点		走行予定時刻		関門	交通規制（予定）	
			先頭走者	最終走者		開始時刻	解除時刻
0.0	スタート	東金アリーナ陸上競技場前	9:20	9:25		8:30	
1.0	市道	ローソン東金家徳店前交差点	9:23	9:34			
2.0	豊海県道	浅井病院入口交差点	9:26	9:42			
2.7	豊海県道	小沼田工業団地入口交差点	9:29	9:48			
4.0	市道	小沼田IC出口	9:32	9:59	10:05		
8.0	有料道路	今泉PA	9:44	10:33		8:00	13:00
8.9		真亀JCT	9:47	10:41			
10.1		不動堂IC	9:50	10:50	10:55		
11.3		真亀JCT	9:56	11:03			
12.5		今泉PA	9:59	11:12			
16.6	市道	小沼田IC出口付近	10:11	11:45	11:45		12:05
17.8	豊海県道	小沼田工業団地入口交差点	10:15	11:56			12:10
18.6	豊海県道	浅井病院入口交差点	10:17	12:02			12:20
19.5	市道	ローソン東金家徳店前交差点	10:20	12:11			12:30
21.1	フィニッシュ	東金アリーナ陸上競技場	10:23	12:24			
			1:03	2:59			

大会ゲスト



たかはし　　なおこ
高橋　尚子さん

1972 年 5 月 6 日生まれ／岐阜県出身

中学から本格的に陸上競技を始め、県立岐阜商業高校、大阪学院大学を経て実業団へ。98 年名古屋国際女子マラソンで初優勝、以来マラソン 6 連勝。2000 年シドニー五輪金メダルを獲得し、同年国民栄誉賞受賞。2001 年ベルリンでは女性として初めて 2 時間 20 分を切る世界記録（当時）を樹立する。08 年 10 月現役引退を発表。

公益財団法人日本オリンピック委員会 評議員、公益財団法人日本陸上競技連盟　評議員、公益財団法人日本パラスポーツ協会　理事、一般社団法人パラスポーツ推進ネットワーク　理事長、公益財団法人日本財団パラスポーツセンター　評議員、一般社団法人 RainboW Walking 理事、スターツコーポレーション株式会社　社外取締役、スズキ株式会社　社外取締役、　その他 TBS スポーツキャスター、JICA サポーター、中日新聞社本社客員などで活躍中。

ゲストランナー



おおいし　　みなと
大石　港与さん

静岡県出身

静岡県立富士東高等学校・中央大学卒業

中央大学在学中は、箱根駅伝に出場した３大会の全てで山登りの５区を担当し３年次には区間３位で総合４位に貢献した。

トヨタ自動車入社後は、７年間主将としてチームを牽引し、陸上長距離部に在籍した１３年間で、ニューイヤー駅伝には１２回出場。インターナショナル区間以外の全ての区間を走り、３区と５区で２度の区間賞を獲得している。

現在は、トヨタ自動車からの出向という形で、母校の中央大学でプレイングコーチを務める。

自己ベスト　ハーフマラソン 1 時間 01 分 15 秒、マラソン 2 時間 08 分 52 秒

オフィシャルアンバサダー



ながた　ゆうじ
永田　裕志さん

１９６８年千葉県東金市生まれ

日本体育大学ではレスリング部に所属し、全日本学生選手権で優勝。輝かしい実績を携え、１９９２年新日本プロレスに入門する。同年９月にデビュー。

２００２年ＩＷＧＰヘビー級王座を獲得した。その後、高山、藤田、蝶野、バーネットらを相手にベルトを守り続け、連続防衛“Ｖ１０”という偉業を達成した。“ミスターＩＷＧＰ”と呼ばれ、日本を代表するレスラーの一人となる。また、新日本、全日本、ノアというメジャー３団体のタッグタイトルも総ナメにした。

２００７年には、４年ぶりにＩＷＧＰヘビー級王座を戴冠する。

２０１１年、新日本プロレスのＮＥＷ　ＪＡＰＡＮ　ＣＵＰ＆全日本プロレスのチャンピオン・カーニバルと春の祭典をダブル制覇する。

２０１６年には、第１１代ＮＥＶＥＲ無差別級王座となるなど、衰えを知らないアラフィフ戦士。

オフィシャルアンバサダー



どい　ゆりえ
土井　友里永さん

１９８８年千葉県東金市生まれ。東金中学校、成東高校出身。

東京学芸大学では１５００ｍと５０００ｍを専門とし、関東学生陸上競技対校選手権大会（関東インカレ）では共に入賞を果たした。

卒業後は千葉市に本拠地を構える実業団女子陸上部のスターツへ入社。駅伝や５０００ｍ、１００００ｍを専門に数々の大会に出場した。中でも、２０１３年に出場した東日本女子駅伝では千葉県チームのキャプテンを務め、チームを優勝へと導いた。また、個人では５区区間賞を獲得し、３年連続での区間賞獲得となった。

その後、５年間在籍したスターツを離れ、競技人生の集大成として、マラソンに挑戦する環境を求めて富士通へ移籍。２０１８年名古屋ウィメンズマラソン１１位（日本人９位）２時間２９分４９秒（自己記録）のレースをもって現役を引退。

現在は、現役時代の経験を活かして富士通陸上競技部のマネージャーへと転身し、陸上競技の発展や普及のため、尽力している。